

5.ゼロカーボンシティ実現に向けての 方針及び目標

5.ゼロカーボンシティ実現に向けての方針及び目標

5-1.新宮町の将来ビジョン

- ・ 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、地域資源や特色を活かした脱炭素社会づくりを進めます。

■ 2050年カーボンニュートラル実現に向けた基本的考え方

- ・ 新宮町の自然や景観と調和しながら、住民、事業者、行政が太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入、徹底した省エネ、二酸化炭素吸収機能を有する緑地空間の整備・保全に取り組み、2050年カーボンニュートラルを実現します。また、蓄電池の導入などによる災害へのレジリエンスの強化、移動手段の脱炭素化・充実などにより、安心して快適に暮らせるまちを形成します。

表 分野別の脱炭素社会づくりに向けた将来ビジョン

分野	脱炭素社会づくりに向けた将来ビジョン
教育・文化	<ul style="list-style-type: none">・ 子どもたちの学校生活に必要なエネルギーが再生可能エネルギーで賄われています。・ 子どもたちが脱炭素社会について学び、意識した生活を送っています。・ すべての住民に、脱炭素に関する学習ができる環境・機会が提供されています。・ 文化・スポーツ施設の運営に必要なエネルギーが再生可能エネルギーで賄われています。
福祉	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者の日常生活に必要な施設までの移動手段をはじめ、ゼロカーボンな移動ができるまちとなっています。
生活	<ul style="list-style-type: none">・ 住民、事業者は、エネルギーをどのように使っているのか意識して、効率的な利用や生み出す取り組みを実践しています。・ 使い捨てプラスチックを使わない生活が浸透しています。・ 食品ロスを出さない生活が浸透しています。・ 町内はEVバス、シェアサイクルなどによるゼロカーボンな移動が可能となっています。
防災	<ul style="list-style-type: none">・ 太陽光発電や蓄電池の導入により大規模災害等による停電時にも、自宅で不自由が少なく生活できます。
産業	<ul style="list-style-type: none">・ 再生可能エネルギーの創出・循環事業により、雇用が創出されています。・ 産業部門では、製品製造過程における脱炭素化が実現されています。
行政	<ul style="list-style-type: none">・ 公共施設への再生可能エネルギー導入などの脱炭素対策に行政が率先して取り組んでおり、住民、事業者への脱炭素に対する認知・意識を高める広報活動も積極的に行っています。

5.ゼロカーボンシティ実現に向けての方針及び目標

5-2.将来ビジョンの実現に向けた脱炭素シナリオと削減目標

・省エネ対策実施や再生可能エネルギーの導入により、2030年は2013年度比で46%削減（121千t-CO₂）、2050年は2013年度比で90%削減（237千t-CO₂）することが可能です。

・脱炭素シナリオは、BAUシナリオにおける「活動量」に加え、追加の取り組みを想定したシナリオです。

・新宮町における脱炭素シナリオは以下の軸から構成されます。

①省エネ対策による、消費エネルギーの削減

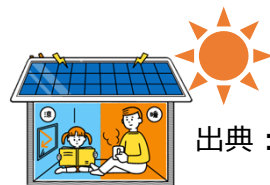
例) 人々の行動の変容、省エネ機器・設備への転換、エコドライブ



出典：環境省HP（COOL CHOICE）

②再生可能エネルギーの導入

例) 太陽光発電設備の導入



出典：環境省HP
（COOL CHOICE）

③吸収源対策の強化

例) 荒廃森林の適正管理、都市緑化



出典：林野庁HP

・新宮町の脱炭素シナリオによると、①～③に示すような取り組みを実施することで、2030年は2013年度比で46%削減（121千t-CO₂）、2050年は2013年度比で90%削減（237千t-CO₂）削減することができます（右表）。

表 新宮町の脱炭素シナリオにおける二酸化炭素排出量

部門	2013	2019	2030		2050		
			脱炭素シナリオ 排出量	2013年度比 削減率(%)	脱炭素シナリオ 排出量	2013年度比 削減率(%)	
民生部門	家庭部門	34	20	15	-56%	0.0	-100%
	業務部門	71	43	30	-57%	8.1	-89%
	小計	105	63	45	-57%	8.1	-92%
産業部門	農業部門	1.1	0.8	0.8	-34%	0.7	-40%
	建設業・鉱業部門	2.7	1.5	0.0	-100%	0.0	-100%
	製造業部門	59	29	9	-85%	0.0	-100%
	小計	63	32	10	-84%	0.7	-99%
運輸部門	自動車部門	86	91	83	-4%	13	-85%
	鉄道部門	1.5	0.7	0.7	-50%	0.7	-50%
	船舶部門	0.5	0.6	0.7	58%	1.0	128%
	小計	88	93	84	-4%	15	-83%
廃棄物部門	一般廃棄物の焼却	8.8	4.9	4.5	-49%	3.4	-61%
合計	264	192	143	-46%	27	-90%	

5.ゼロカーボンシティ実現に向けての方針及び目標

5-2.将来ビジョンの実現に向けた脱炭素シナリオと削減目標

- ・新宮町における二酸化炭素排出量の削減目標は、2030年は2013年度比で46%（121千t-CO₂）、2050年は2013年度比で90%（237千t-CO₂）とします。
- ・さらに2050年実質排出ゼロの達成に向けて、再生可能エネルギー由来の電力の調達や吸収源対策の強化を実施します。

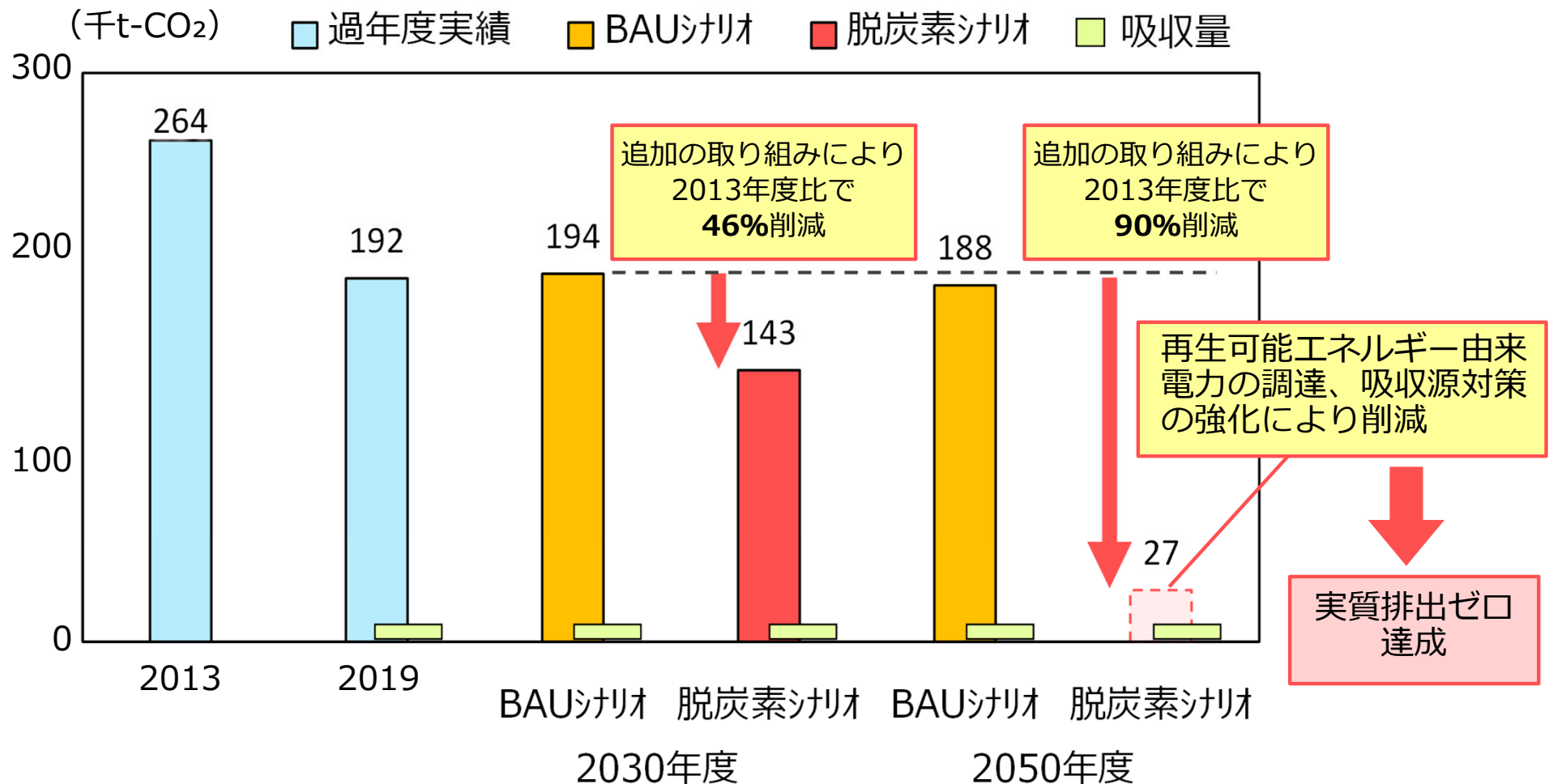





図 脱炭素シナリオによる削減イメージ

5.ゼロカーボンシティ実現に向けての方針及び目標

5-3.再生可能エネルギー導入目標

- ・ 将来ビジョンの実現に向けて、家庭部門及び業務部門において、太陽光発電設備を導入します。
- ・ 2030年は、導入可能な設備容量の50%を、導入可能な施設の50%に導入します。
- ・ 2050年は、導入可能な最大設備容量を、導入可能な施設の90%に導入します。

- ・ 太陽光発電設備は、技術革新により、再生可能エネルギーのなかで、最も簡単に導入することが可能です。
- ・ 太陽光発電設備の導入を促すことで、町のなかで再生可能エネルギーが循環するための仕組みを早い段階から検討します。
- ・ 脱炭素社会の実現のため、導入ポテンシャルのうち、2030年はの50%、2050年は90%の導入を目標とします。

部門	概要	発電量（千kWh/年）			
		2030年	導入の条件	2050年	導入の条件
家庭部門	戸建て住宅への導入 	2,614	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入可能な設備容量の50% ・ 導入可能な戸建て住宅の50% 	34,852	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入可能な最大設備容量 ・ 導入可能な戸建て住宅の90%
	集合住宅への導入 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発電した電気の配分などの課題があり、戸建て住宅と比べて、導入が難しいため、2030年は対象外 	25,499	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入可能な最大設備容量 ・ 導入可能な集合住宅の90%
業務部門	公共施設含む事業所への導入 	8,139	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入可能な設備容量の50% ・ 導入可能な事業所の50% 	13,668	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入可能な最大設備容量 ・ 導入可能な事業所の90%
合計		10,753	—	74,019	—